県、ストーンワークスが開発

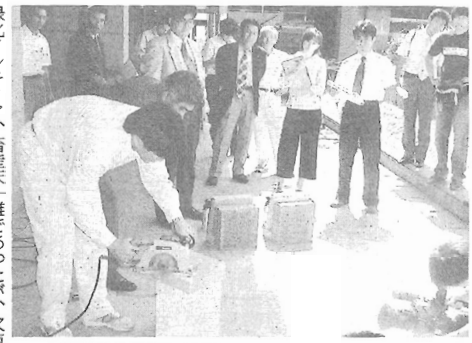
緑化基盤材等を販売

シラスを原料に活用

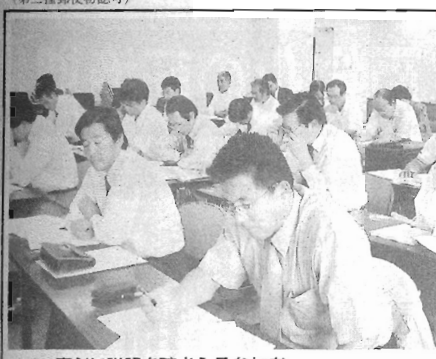
県は26日、姶良郡隼人町の県工業技術センターで、シラスを大量に利用できる技術を開発し、㈱ストーンワークス（曽於郡大崎町）と製品化に向けて共同研究を進めた結果、シラス製品の実用化に成功し、緑化基盤材、緑化インテリア、畜産床材、シラスブロック、透水性ブロックの製造販売を同日から開始したことを発表した。

技術開発は、シラスコンクリート骨材として利用するために、細かい粒度、高い吸水率、低比重、粒子形形状が角張っているなどの4大欠点を持っているため、実用化が困難であったが、欠点を利点に変える形成方法（ゼロスランプ加圧成形法）でシラスに含まれる水分でシラスを硬化させる方法により、普通のシラスを大量に利用できる技術。普通シラスの中に多く含まれる水を利用し、ふるい分け試験で粒度毎に分類して半乾式加圧成形する。現在、特許を出願中であり、世界中の火山噴出物の利用としたの新製品として期待される。

同日は、研究開発の背景と目的、シラスの性状、製造法、実施例紹介、シラス新製品のデモンストレーション（性能試験）の後、質疑応答が行われた。会見の中で、「工場一貫生産を可能にし、品質安定と製造時間短縮、低コスト、高強度、耐久性の面からも様々な用途に利用できる」と説明した。このあと、曽於郡大崎町の製造工場や実際屋上緑化を施工した鹿屋市の池田病院等の視察も行われ商品の素晴らしさを実証した。



強度等を確認した性能試験
＝隼人町の県工業技術センターで



真剣に説明を聴き入る参加者
＝鹿児島市の県庁舎で

県、優良賃貸住宅制度説明会

今年度 残り41戸が対象

県土木部住宅課は26日、鹿児島市の県庁舎で第2回優良賃貸住宅制度説明会を開き、土地所有者ら約30人が参加し、特定優良賃貸住宅や高齢者向け優良賃貸住宅などについて学んだ。

初めに、熊谷良博県住宅課技術補佐が「5年に特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する制度、13年に高齢者の居住の安定確保に関する制度が施行された。民間の土地所有者等による中堅所得者や高齢者の居住の用に供する優良な賃貸住宅に対する効率的な助成を通じて、公営住宅を補完する特定優良賃貸住宅及び高齢者向け優良賃貸住宅の供給を促進する」と制度について紹介した。

引き続き、古屋隆治同課建築技師、高崎智幸同課技術主査らが「県優良賃貸住宅の概要」、「事業者募集から管理開始までの流れ」、「高齢者向け優良賃貸住宅」、「募集要綱」などについて説明が行われ、参加者は真剣に聴講した。

なお、14年度の認定戸数は90戸で既に49戸が認定を受けており、今回は残り41戸が対象となる。

問い合わせは、県住宅課（☎099・286・3738）まで。

厳しくチェックする診断員
＝知覧町の現場で

県建設業協会加世田支部パト

KY活動等を入念に

県建設業協会加世田支部（上東信義支部長）は26日、全員参加型のKY活動、SC5運動の周知徹底など一を柱とした合同現場パトロールを実施した。パトロールには、各社から現場主任・責任者ら約50人が参加して、主任者職務に対する意識の高揚を図った。

午前9時、南薩建設業会館に集まった参加者らを前に上東支部長が「厳しい景況の中で、事故を起こすということが当事者のみならず、会社や家族に多大な損害をもたらすという事をしかと認識し、パトロールしてほしい」と挨拶。注意事項等が説明された後、2班に分かれて診断に向かった。

このうち、上村大一郎労務委員長を班長とする1班は、堀之内建設（知覧町）、川原建設（前同）、田川組（同）、森田建設（川辺町）の4現場を厳しく診断。堀之内建設と川原建設の現場では、朝礼シミュレーションが行われ、現場主任者と作業員らのやり取りに、参加者らは自社の朝礼と比較するように熱心に見入っていた。

午後から行われた反省会では、パトロールの結果報告が行われ、誘導員配置の問題、事務所内の整理整頓、休憩所が狭い－などが指摘されたが、点検記録簿が整備されていた、定期健康診断が実施されていた－など良好との診断結果が報告された。このあと、上東支部長が「概ね良好と言えるが、厳しく見ればまだまだ改善できるところが多い。KY活動、SC5の必要性をしっかり理解し、各自が地域住民に理解を得られる仕事をすることが、ゼロ災につながることを認識してもらいたい」と総評した。

ミラクルソルの特徴を習得した勉強会
＝鹿児島市のホテル吹上荘で

姶良町建設業協会 安全講習会

運転免許証の重さ自覚を

姶良町建設業協会（橋口一二三会長）は26日、姶良郡姶良町の中央公民館で14年度安全講習会を開き、会員及び社員約140人が出席して今年6月に施行された改正道路交通法や労働災害等について学んだ。

講習会の冒頭、橋口会長は「公共事業削減や労務単価ダウン等、業界を取り巻く環境は依然厳しく、会員においても、生き残りをかけて必死の状態。今こそ原点に立ち戻り、安全について見直す必要がある」と挨拶。早速加治木警察署交通課長の谷口和則警部が、道路交通法改正について説明した。

谷口課長は悪質、飲酒及び酒気帯び運転など危険運転者に対する罰則が大幅に強化された事や刑法に危険運転致死傷罪が新設された事などを、パンフレットや実例を基に詳しく説明し、「事故は運が悪くて起きるのではない。責任を感じて努力する姿勢が大切。運転免許証の重さ、ハンドルの重さを考え、ルールを守って運転をしていただきたい」と結び、交通事故が加害者、被害者共に深い苦痛を与える事実を訴えたビデオを放映した。

続いて加治木労働基準監督署の水上裕司監督官が安全講話を行い「慣れが重大な災害を引き起こす。事故は起きないという思い込みで仕事をしてはいないか」と、様々な死亡災害の事例を分析して、その及ぼす影響について話した。出席者は交通事故や死亡災害の怖さや、周囲に与える影響の大きさを改めてかみしめていた。

真剣な表情で聴き入る出席者
＝姶良町の中央公民館で

県斜面工法研が勉強会

環境緑化工法を学ぶ

県斜面工法研究会（精冨三丸会長）は26日、鹿児島市のホテル吹上荘で勉強会を開き、ガラス廃材を原料に開発された「ミラクルソル」の環境緑化工法や軽量法枠工などを学んだ。

8月末に設立された同研究会では、環境に配慮した技術研究を目指すことにしており、今回の勉強会も、その一環。初めに精会長が「循環型リサイクルが注目される今、新技術、新工法を学び、発注機関等に十分な説明ができるよう勉強して頂きたい」と挨拶。

続いて、講師の原裕日本建設技術㈱社長がミラクルソル工法の特徴と製品工程について講義。廃ガラス材の再資源化による新素材であるミラクルソルのうち、連続間隙構造のものは吸水・保水性に優れ、斜面や難工事とされる石盤緑化等に有効。また、独立間隙構造は非吸水性で、軽量盛土材、軽量骨材、地盤改良材として機能を発揮すると説明。これらを用いた新工法等も解説した。

同日は、㈱サンゴの山本伸二製造部長らがSGフレーム工法、軽量法枠の特徴や用途について講義した。